

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name, Value. Fields include: 事業所番号 (0172900094), 法人名 (極東警備保障株式会社), 事業所名 (グループホーム大空 Aユニット), 所在地 (旭川市永山2条21丁目2番12号), 自己評価作成日 (平成27年7月23日), 評価結果市町村受理日 (平成27年8月14日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2014\\_022\\_kani=true&JigvovsyoCd=0172900094-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvovsyoCd=0172900094-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name, Value. Fields include: 評価機関名 (タンジェント株式会社), 所在地 (北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内), 訪問調査日 (平成27年8月5日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでの方針「ゆつくり・いっしょに・たのしく」のもと、利用者様とのふれあう時間を設けるように努めています。日々の生活を楽しく過ごして頂ける様にレクや外出に積極的に取り組んでおり、職員と利用者様共に笑顔で関わられるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<楽しみごとへの支援>
一人ひとりのその日の希望に沿って近隣の公園散歩や帰宅への支援、大型ショッピングモールでの買い物や旭山動物園見物など戸外に出かけたり、野外でのジンギスカン等の焼肉や地域の子供会との合同花火大会開催など楽しみごとや気分転換等の支援をしている。また、大学の看護学生の協力を得ながらレクリエーションを一緒に楽しんだり、盆踊り大会を開催するなどホーム内での行事も企画している。
<一人ひとりの力を活かした生活支援>
張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かしながら歩行訓練や踏み台昇降・立ち上がり運動、ゴムバンド運動や口腔外マッサージ等のレクリエーションを日々採り入れながら身体機能の維持・向上に取り組んでいる。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Description, Rating (1-4), and Achievement. Rows 56-62 describe various service outcomes like staff understanding user needs, outdoor activities, and health management.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人一人が事業所の理念に基づき常日頃、意識して業務に取り組んでいる。又、月1回の朝礼で職員全員が声に出し、事業所理念を意識づける為、読み上げる様になっている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念に基づいて朝礼での唱和や日常業務を通じて、その理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	四季折々に関わる行事の案内をしている。定期的に大空だよりも発行しており町内会とのつながりを促進している。地域のお祭り見学や町内との合同行事も毎年開催している。	町内のお祭り見物や参加、地域の子供会との合同花火大会の開催などを通じて地元の人々との協力・連携に努めている。また、火災避難訓練に町内の人々にも参加を呼びかけて緊急時の協力体制づくりにも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方、町内会長、民生委員が運営推進会議メンバーになっているので、認知症状、介護技術の研修を町内方に参加して頂ける様声掛けしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際に事故報告、苦情への対応その都度取り組んでいること等報告し意見を頂き新年度の運営に活かしている	運営推進会議は、年6回を目安に開催して事業所の取り組み状況や感染症対策など具体的に話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村や市高齢化地域包括センター等の主催する研修に可能な限り参加し自己研鑽するようになっている。運営推進会議メンバー市高齢化から出席して頂いて意見交換をしサービス向上に活かしている。	市担当者とは、研修会参加や日常業務を通じた報告、助言を得るなど協力関係を築くように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての正しい知識・理解を持てるよう定期的にミーティング時等で話し合いをおこなっている。不適切ケア防止についても具体的な例を取り上げ話し合いを持つようにしている。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を内部研修会開催や不適切なケアの事例を挙げての話し合い等を通じて正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての取り組みをミーティングの中で話し合うようにしておりその意味を理解してもらええる様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が率先して研修に参加し研修内容を説明、理解を深められる様移動している。又職員に研修の機会を与える様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、解約の際、本人、御家族が納得できる様契約書、重要事項説明書等、必要事項はきちんと同意いただけるよう説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入口に苦情受けを備えおりいつでも意見や苦情を述べられるようになっている。ご意見、苦情には迅速に対応し納得して頂ける様説明しています。	家族や来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように苦情受付箱の設置や第三者機関への申し出先を見やすい場所に明示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議で、意見や提案を自由に述べられる時間を作っており、内容を全員で話し合い反映出来るようにしている。	個人面談の実施や定例会議での話し合いで運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が日頃の勤務状況を査定しており、その内容を代表者に報告し、それに基づき福祉部長が個々と面談して希望を聞き、職場環境改善につなげる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己研鑽のため、研修を受けられる様機会をつくり参加するように努めている。研修後はその内容を会議の時に発表し全職員で共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	GHの研修にはできるだけ参加し、それ以外の勉強会、研修にも希望があれば参加できるように努めている。包括支援センターの研修にも今後出来るだけ参加し他のGHの方々と交流しお互いに意見交換をしていきたい。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談し要望、不安を聞き取りする様にしており、その後も寄り添うような関わりを行い、まず信頼して頂ける様に対応していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の要望、心配な事を事前に聞き取り、把握しておき今後のサービスの方向性を確認する。契約時に本人を交え、時間をかけて何でも話せると思って頂ける様に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容をしっかり受け止め、ホームでの生活にまず必要なサービスを見極め提供する。状態によっては外部のサービス(訪問看護、口腔ケア指導、訪問マッサージ等)と取り入れように対応する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に洗濯ものたたみ、おしぼり作り等を行うようにしている。時にはお花の水やりや雑草取りをスタッフと行い花の名前、雑草のとり方をスタッフが教えてもらう等の場面も作りお互いに支えあっているという関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月郵送時、面会時に最近の生活状態、受診の結果、体調、食事摂取量等を家族へ報告したりと細かく情報を共有している。面会時は自室へ案内しゆっくり過ごしてもらう。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ボランティアで時々来訪され利用者とお話しされる場面あり、利用者も楽しそうに会話されている。理美容も今まで馴染みの所で入居後も利用されてる方もいます。	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう帰宅や地域のお祭り等の行事参加、友人・知人の来訪支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者さんの性格、認知症状を把握し、隣合う方の相性、コミュニケーションの有無を考慮した配置を配慮している。スタッフが仲に入り関係を取り持つようにもしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退所された方には、定期的に面会へ行ったり、状態をお聞きしたりもしている。家族が今後の事を相談してきたときも方向性の助言している。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴を聞きだし可能な限り反映出来るようにしている。意思疎通が困難な方でも深く関わる事で本人の希望を引き出せるように努めている。	毎月、ユニット毎の会議を開催して一人ひとりの思いや暮らし方の希望や家族の意向等を話し合い、本人本位に検討して職員間で共有に努めている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に情報提供書や家族から生活歴について情報を収集している。前担当者の看護師、ケアマネジャーがいれば情報を聞き出せる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人のケース記録をつけており、それを基に状態の把握を行い、毎日の引き継ぎで状態の変化があればスタッフ間で情報を共有化し個別ケアに活かしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新時に家族、本人の要望を再確認しモニタリングに活用し、担当スタッフからの情報をサービス担当者会議で収集し、新たなケアプラン作成に活かしている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族、医師・看護師からの指導や助言、モニタリングで職員のアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録や申し送りにて情報を共有し早番、日勤での様子の記載するときはケアプランに沿った内容を記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームで対応出来る範囲で研修の受け入れを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内子供会との合同開催花火大会では利用者と子供さんとの交流している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・家族の希望する医療機関。又、嘱託医による往診、週一回の看護師によるラウンドにより対処しています。	医師の往診や訪問看護の利用、通院への同行で適切な医療を受けられるように支援している。また、受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週定期的に連携をしている医療機関から看護師を派遣して頂き、利用者様の体調、バイタルの確認をしています。又、24時間電話で体調の変化に対応して頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在入院された方は、2ヶ月間は部屋を空けてお持ちしています。その間も定期的な医療とのムンテラにより利用者様の状態把握に努め、早期退院後の受け入れ態勢を取れる様に心掛けています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度・終末期に本人・家族の意向に出来る限り添える様、医療機関と連携を図り、緊急時の対応等検討・準備しています。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有し、看取りを実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを設置して全ての職員に周知してもらっている。又地域消防署主催の救急救命の講習に管理者、職員が参加し訓練に活かしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練を行って地域の方にも参加して頂く様にしている。防災訓練を現在行っていないが、消防署から講師を迎え防災について地域の方や職員が学ぶ機会を設けている。	地域の人達も参加する年2回の火災避難訓練を実施し、地域との協力体制を築いている。また、スプリンクラーや火災通報装置、報知器等の設備が完備し、定期点検も実施している。	
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー確保の為に出来る事を内部研修等でも徹底する様に努めています。又個人が特定出来る書類を破棄する時はシュレッターで処理しています。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように内部研修会で職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な場面で自己決定出来る機会を作ります。個人と話し合い買い物や行きたい場所に行く機会を設けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入居前の生活リズムも把握し、一人ひとりに合ったペースで生活出来る事を心掛けています。飲酒や喫煙も担当医と相談し、出来るだけ本人の意向に添った対応をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で衣服を選べる方は好きな服を選んで頂いています。又選べない方は家族さんから好みを聞き訪問者にも恥ずかしくない服装で過せるよう配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好き嫌いを把握し食べれない食材には代替品を用意しています。又歯科医、口腔ケア専門士の協力を得て出来るだけ普通食を食べられる様に菌の治療や嚥下訓練をしています。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、食事の準備や後片付け等を職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の摂取状況を表にして把握して必要量を確保している。又体重測定や健康診断等を参考にして主治医と相談しながら適性体重維持の種に食事を制限している方もいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔ケア状態が把握出来る表を作成、自力で出来ない方には毎食後にケアを行っています。又歯科医師、口腔ケア専門士が毎週来園して歯科治療、口腔ケアを実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツは最終手段で有り、トイレでの排泄を維持して行く為に排泄状態が変わる時は、本人はもちろん、家族や担当職員や管理者が検討して排泄方法を決定する様にしています。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握して、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ食事材料の工夫で自然排便を心がけています。又各個人別の運動表により身体を動かす機会をより多くもてる様にしています。頑固な便秘症の方は主治医と相談しその方にあった下剤を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	基本的に火・水・金・土という入浴日が決まっていますが、皮膚疾患や本人の希望でいつでも入浴出来る体制になっています。一番風呂を好む方への配慮、その人に合わせて対応しています。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて個々に沿った柔軟な支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを把握し、その人に合った方法で日中の活動を増やして行き、自然な形で昼夜逆転を治せる様支援しています。就寝時間は本人に合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの指示内容、内服の変更等、受診結果はその都度、全職員に口頭、記録により周知出来る体制を組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や習慣を把握し、その方に合った役割をして頂いて、終わったら必ず感謝の気持ちを言葉にしています。職員と共に楽しめる様に機会を設けています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏期には毎日の様に散歩の機会を設けているが本人希望で遠方の外出は担当職員と外出出来る様に計画を立てから外出している。又自宅へ帰りたい時は家族の許可を得てから送迎をする事も支援している。	一人ひとりのその日の希望に沿って、近隣への散歩やお祭り等の地域の行事参加で戸外に出かけるように努め、動物園見物や大型ショッピングモールでの買い物等で普段行けないような場所でも、出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は小額の金銭を持ち歩き管理している方が数名いますが、買い物時などで自分で支払い出来る様見守りしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用したい方には、その方に合った方法でお手伝いをしています。手紙や小包は、本人に必ず開封をして頂きます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ディルームには季節に合ったディスプレイを飾り、心地よい音楽が流れ、吹き抜けの天窓からは光が差し込み明るく開放感いっぱいの中で穏やかに過ごされています。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間には、季節毎の飾りつけや行事参加の写真の掲示などを生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ディルームにはソファ、食堂には食卓テーブルが有り、夏期には中庭に椅子を設置し、日光浴やお茶を楽しんで頂ける様配慮をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様それぞれの生活調度品を持ち込み、住み慣れた環境になる様に心掛けています。	居室には、家族の写真の掲示や使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれ本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員全員が利用者様の身体状況、生活歴を把握し、混乱しない様に気を配り、安心して頂ける様な声掛けをしています。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900094		
法人名	極東警備保障株式会社		
事業所名	グループホーム大空 Bユニット		
所在地	旭川市永山1条21丁目2-12		
自己評価作成日	平成27年7月23日	評価結果市町村受理日	平成27年8月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2014\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0172900094-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0172900094-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成27年8月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでの方針「ゆっくり・いっしょに・たのしく」のもと、利用者様とのふれあう時間を設けるように努めています。日々の生活を楽しく過ごして頂ける様にレクや外出に積極的に取り組んでおり、職員と利用者様共に笑顔で関わられるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人一人が事業所の理念に基づき常日頃、意識して業務に取り組んでいる。又、月1回の朝礼で職員全員が声に出し、事業所理念を意識づける為、読み上げる様になっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事へ地域の方にも参加して頂く様にし、地域の方々と日常的に交流を図れるよう配慮している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会長が地域運営推進会議の構成員になっており、事業所で行っている認知症介護技術などの研修を町内の方にも参加して頂ける様声掛けしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	常に運営推進会議では、地域の方々に運営状況の報告を行い、事業所の取り組み、サービスの提供に対する意見、要望を頂き、サービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回、介護高齢課の方に出席して頂き、定期的に施設に取り組み等を報告している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待・不適切ケアゼロへの具体的取組について委員会を取り上げ定期的に研修を開催し日々、不適切なケア(身体拘束等)が無いよう事前に防ぐ・気づく環境づくりを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の取り組みを毎月ユニット別に職員に提出してもらい全体会議で発表し改善策を話し合っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員に研修の機会を与える様に勤めています。管理者が率先して権利擁護の研修に参加し、研修内容を説明、理解を深める様に指導しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居を希望される際又、解約をする際ご家族の方々に納得を得る為、契約書等必要事項は時間を設け説明しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入り口に苦情受けを備えている。又、ご家族からのご意見や苦情にはご納得して頂ける様に説明し、記録として保存して年1回は運営推進会議で苦情への対応を説明し意見を頂いています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議に合わせて匿名で意見を述べるアンケートと一つの議題について全体で話し合うディスカッションを交互に行い出来るだけ職員からの意見や提案を述べる機会を作っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給や賞与の前に管理者が各個人の査定を行い、個々の勤務状況について詳しく代表者に報告しその内容を福祉部部長が個々と面談して確認し希望を聞き、職場環境改善につなげています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成の為、研修を受ける機会を全職員に提供し、職場でも職員の希望する実技の実習をしています。更に受けて来た研修内容の報告を会議の時に発表し全職員で共有する様にしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	様々な研修の場へ参加する事で、他のホームの方々と交流し、お互いに意見交換をしています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と関わり、ゆっくりと話を聞きます。状況によっては手を握るなど必要と考えています。その事により、信頼関係が生まれる事も有ると思います。更に、本人からの訴え時口をはさまず話を聞きます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	正確なアセスメントをする為に、事前調査や入所前の面談に時間をかけて行い、話し易く相談し易いアプローチをして家族の思いを受け止められる様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容をしっかりと受け止め、ホームの立場として何処まで関われるか、又支援する事が可能か見極め対応する事が必要と考えます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各利用者さんには担当職員が付き、一番身近に日常生活上の相談を受けるような親身な対応をしている又夏期には利用者さんと担当職員が外出先を決めて2時間外出する取り組みもしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんの受診結果や体調、食事量などを家族へ報告し、情報の共有を心がけています。担当職員との外出後は家族さんへ写真入りお手紙を出しお知らせしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々ホームへ訪ねてくる方、又お電話等により、馴染みの関係を保っている方、郵便などで継続されている方もいます。本人から求めがあれば援助し関わっていきます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者さんの性格や状態を把握し、隣合う方の相性やコミュニケーションの有無を考慮した場所を配置しています。又職員が仲に入り関係を取り持つ事も有ります。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退所された方には、定期的に連絡をし、状態などをお聞きしたりお見舞いに行く等しています。又、年賀状などのやり取りも継続して行っています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が困難な方でもより深く関わる事で本人の希望を引き出す努力をしています。家族からもケアプランに反映出来る様に意見を取り入れています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の状況調査記録や入所前のケアマネや家族からの情報を担当職員全員で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人のケース記録が有り、それ一冊で全ての状態が把握出来る様になっており、全ての職員が共有化し、個別ケアに生かしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新時に家族からの要望をモニタリングで活用し、担当介護員からの情報をサービス担当者会議で収集し、新たなプラン作成やアセスメントに繋げています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のミーティングで伝えられる職員の声を個人のケース記録に記載しています。早番・日勤での様子を毎日記載する時には、ケアプランに添った内容を記載しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設で対応出来る範囲で研修の受け入れを行っています。現在地域から2名のボランティアの方が毎週来て下さっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域からのボランティアを受け入れ話し相手施設行事の参加をして頂いています。又町内子供会との合同開催花火大会では利用者と子供さんとの交流も行えています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・家族の希望する医療機関。又、嘱託医による往診、週一回の看護師によるラウンドにより対処しています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週定期的に連携をしている医療機関から看護師を派遣して頂き、利用者様の体調、バイタルの確認をしています。又、24時間電話で体調の変化に対応して頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在入院された方は、2ヶ月間は部屋を空けてお待ちしています。その間も定期的な医療とのムンテラにより利用者様の状態把握に努め、早期退院後の受け入れ態勢を取れる様に心掛けています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度・終末期に本人・家族の意向に出来る限り添える様、医療機関と連携を図り、緊急時の対応等検討・準備しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを設置して全ての職員に周知してもらっている。又地域消防署主催の救急救命の講習に管理者、職員が参加し訓練に生かしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練を行って地域の方にも参加して頂く様にしている。防災訓練を現在行っていないが、消防署から講師を迎え防災について地域の方や職員が学ぶ機会を設けている。		
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー確保の為に出来る事を内部研修等でも徹底する様に努めています。又個人が特定出来る書類を破棄する時はシュレッターで処理しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な場面で自己決定出来る機会を作ります。個人と話し合い買い物や行きたい場所に行く機会を設けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入居前の生活リズムも把握し、一人ひとりに合ったペースで生活出来る事を心掛けています。飲酒や喫煙も担当医と相談し、出来るだけ本人の意向に添った対応をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で衣服を選べる方には自分で好きな格好をして頂いています。又選べ方は家族さんから好みを聞き訪問者にも恥ずかしくない服装で過せるよう配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好き嫌いを把握し食べれない食材には代替品を用意しています。又歯科医、口腔ケア専門士の協力を得て出来るだけ普通食を食べられる様に歯の治療や嚥下訓練をしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の摂取状況を表にして把握して必要量を確保している。又体重測定や健康診断等を参考にして主治医と相談しながら適性体重維持の種に食事量を制限している方もいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔ケア状態が把握出来る表を作成、自力で出来ない方には毎食後にケアを行っています。又歯科医師、口腔ケア専門士が毎週来園して歯科治療、口腔ケアを実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツは最終手段で有り、トイレでの排泄を維持して行く為に排泄状態が変わる時は、本人はもちろん、家族や担当職員や管理者が検討して排泄方法を決定する様にしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ食事材料の工夫で自然排便を心がけています。又各個人別の運動表により身体を動かす機会をより多くもてる様にしています。頑固な便秘症の方は主治医と相談しその方にあつた下剤を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	基本的に火・水・金・土という入浴日が決まっていますが、皮膚疾患や本人の希望でいつでも入浴出来る体制になっています。一番風呂を好む方への配慮、その人に合わせて対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを把握し、その人に合った方法で日中の活動を増やして行き、自然な形で昼夜逆転を治せる様支援しています。就寝時間は本人に合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの指示内容、内服の変更等、受診結果はその都度、全職員に口頭、記録により周知出来る体制を組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や習慣を把握し、その方に合った役割をして頂いて、終わったら必ず感謝の気持ちを言葉にしています。職員と共に楽しめる様に機会を設けています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏期には毎日の様に散歩の機会を設けているが本人希望で遠方の外出は担当職員と外出出来る様に計画を立てから外出している。又自宅へ帰りたい時は家族の許可を得てから送迎をする事も支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は小額の金銭を持ち歩き管理している方が数名いますが、買い物時などで自分で支払い出来る様見守りしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用したい方には、その方に合った方法でお手伝いをしています。手紙や小包は、本人に必ず開封して頂きます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ディールームには季節に合ったディスプレイを飾り、心地よい音楽が流れ、吹き抜けの天窓からは光が差し込み明るく開放感いっぱいの中で穏やかに過ごされています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ディールームにはソファ、食堂には食卓テーブルが有り、夏期には中庭に椅子を設置し、日光浴やお茶を楽しんで頂ける様配慮をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様それぞれの生活調度品を持ち込み、住み慣れた環境になる様に心掛けています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員全員が利用者様の身体状況、生活歴を把握し、混乱しない様に気を配り、安心して頂ける様な声掛けをしています。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム大空

作成日: 平成 27年 8月 10日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	27	早番、日勤での様子を毎日記録するときには介護計画に沿った内容を記載する様にしているが、職員一人一人が記録の意味を理解できておらず、介護計画の見直しに活かされていない。	職員一人一人が個別の介護計画をよく理解し、その気づきや工夫を介護計画の更新に活かしたい。	①介護計画の意味を理解できるよう、ケアマネジャーより指導していく。 ②積極的外部研修への参加を促す。 ③定例会議等を利用し、勉強会を行う。	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。